

## 病院事業会計

### 1 決算の概要

#### (1) 経営成績（消費税を除く）

各病院の本年度の経営成績は次のとおりである。

(単位:千円)

科目	年度	加賀市民病院				山中温泉医療センター			
		25年度 (当初予定)	25年度	24年度	25年度-24年度	25年度 (当初予定)	25年度	24年度	25年度-24年度
経常収益 (a)		4,563,725	4,513,949	4,414,030	99,919	231,700	231,295	233,923	△ 2,628
経常費用 (b)		4,314,996	4,283,339	4,278,959	4,380	351,445	327,886	338,427	△ 10,541
経常収支 (a)-(b)		248,729	230,610	135,071	95,539	△ 119,745	△ 96,591	△ 104,504	7,913
特別利益 (c)		0	0	0	0	0	0	1,126	△ 1,126
特別損失 (d)		6,454	2,019	1,848	171	0	0	4,503	△ 4,503
当年度純損益 (a)-(b)+(c)-(d)		242,275	228,591	133,223	95,368	△ 119,745	△ 96,591	△ 107,881	11,290

平成 25 年度ベースで見る加賀市民病院及び山中温泉医療センターの純損益は、2 病院通算で 1 億 32 百万円の黒字であり、病院事業全体で前年度比 1 億 7 百万円改善された。

#### 加賀市民病院

本年度の純利益は 2 億 29 百万円であり、当初の見込額を下回ったものの前年度比 95 百万円の増益となった。この結果、累積欠損金は 30 億 94 百万円、前年度比 6.9%減となった。

本年度の経常収益は 45 億 14 百万円で、当初の見込額を下回ったものの、前年度比 1 億円の増 (2.3%) であった。これは、入院患者数・外来患者数がともに見込みより少なかったものの、診療内容の充実と平均在院日数の短縮を心がけたことにより、一人当たり収入は入院・外来ともに増加し、入院収益・外来収益とも前年度比増加したためである。

経常費用は 42 億 83 百万円で、当初の見込額を下回ったが、前年度比 4 百万円の増 (0.1%) となった。これは、減価償却や繰延勘定償却等が大きく減少したにもかかわらず、看護師確保の推進による給与費の増や、内科入院患者数の伸びによる材料費が増加したためである。

#### 山中温泉医療センター

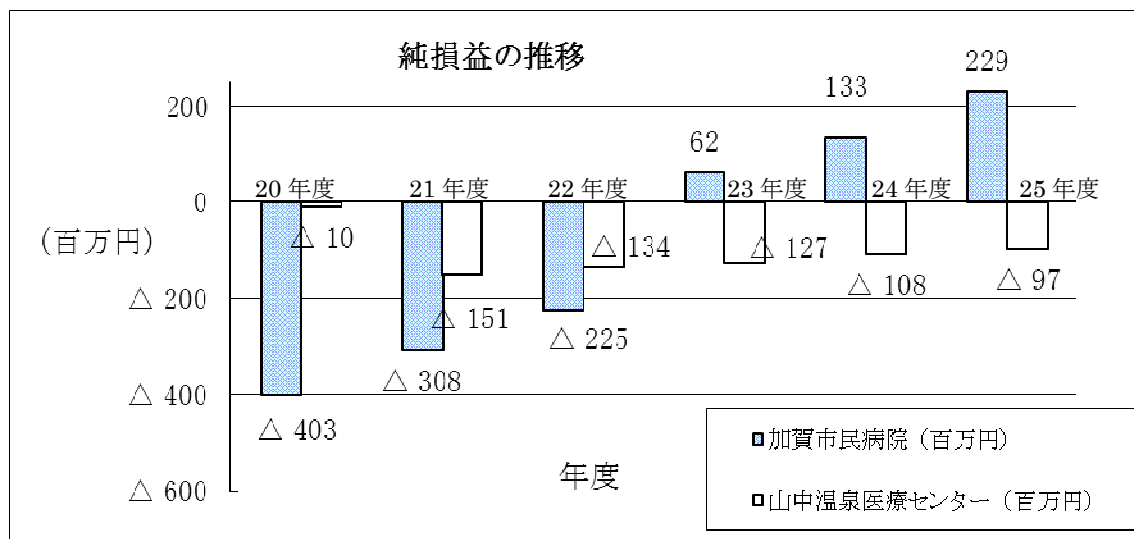
山中温泉医療センターの本年度純損失は 97 百万円で、前年度と比べ損失額は 11 百万円減少し、この結果、累積欠損金は 8 億 77 百万円となった。

経常収益はほぼ見込額どおりで、前年度との差異 3 百万円は、指定管理者からの一部負担金の減による。

経常費用は 3 億 28 百万円で、当初の見込額を下回り、前年度比でも修繕費や減価償却費を中心に 11 百万円の減となった。

各病院の純損益

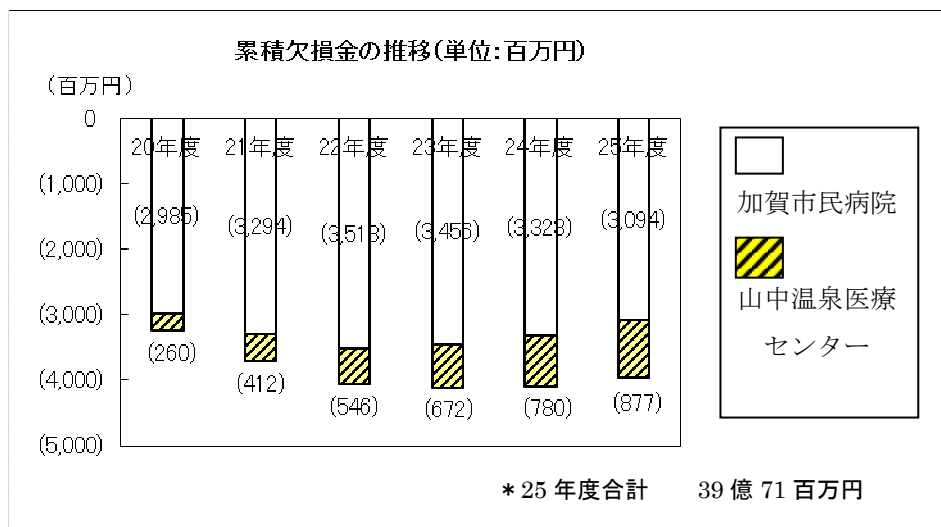
(単位：百万円)



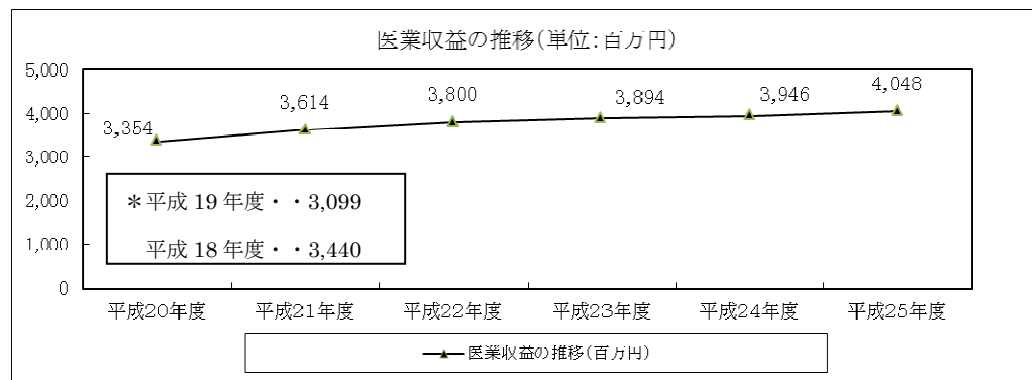
加賀市民病院は平成 23 年度に黒字に転換し、以降本年度も黒字決算となり、年々増益の傾向にあり、純損益は改善されつつある。

各病院の累積欠損金の推移

\* ( ) は欠損金の額を意味する。



加賀市民病院の医業収益の推移



## (2) 資本的収入及び資本的支出（消費税を含む）

各病院の資本的収入・支出の予算額に対する決算額は次のとおりである。

【資本的収入】

\*「法」は、地方公営企業法をさす。

(単位:千円)

病院事業	現計予算額	決算額	翌年度繰越額 (法26条)	決算額の予算額 に対する増減
加賀市民病院 資本的収入	294,818	298,450	0	3,632
山中温泉医療センター 資本的収入	157,362	130,635	0	△ 26,727
統合新病院 資本的収入	701,453	556,973	142,300	△ 2,180
収入合計	1,153,633	986,058	142,300	△ 25,275

【資本的支出】

(単位:千円)

病院事業	現計予算額	決算額	翌年度繰越額 (法26条)	不 用 額
加賀市民病院 資本的支出	456,019	454,388	0	1,631
山中温泉医療センター 資本的支出	276,818	248,980	0	27,838
統合新病院 資本的支出	1,629,560	1,485,081	142,380	2,099
支出合計	2,362,397	2,188,449	142,380	31,568

病院事業の資本的収入と資本的支出の決算額差額は12億2百万円であるが、これは主に新病院用地取得費を平成24年度より繰り越したことによるものであり、補てん財源として、平成24年度の用地費前金分に充当した企業債及び一般会計出資金を繰越工事資金として充てている。

統合新病院の資本的支出では、用地費について、農地転用の手続きの完了に伴い、平成24年度に支出した前金分を含めた全額が計上されている。

翌年度繰越額は、統合新病院の設計・造成に係る工期変更にかかる額である。

### (3) 財政状況

本年度末の財政状況は、次のとおりである。

(単位:千円)

科 目	加賀市民病院			山中温泉医療センター		
	26年3月末	25年3月末	増 減	26年3月末	25年3月末	増 減
(1) 資 産	6,769,566	6,710,142	59,424	2,231,523	2,398,951	△ 167,428
固定資産	4,429,483	4,533,290	△ 103,807	1,989,305	2,078,019	△ 88,714
流動資産	2,285,652	2,101,593	184,059	242,218	320,932	△ 78,714
繰延勘定	54,431	75,259	△ 20,828	0	0	-
(2) 負 債	351,948	430,086	△ 78,138	22,840	28,718	△ 5,878
固定負債	0	0	-	0	0	-
流動負債	351,948	430,086	△ 78,138	22,840	28,718	△ 5,878
(3) 資 本	6,417,618	6,278,848	138,770	2,208,683	2,370,233	△ 161,550
自己資本金	6,057,253	5,948,032	109,221	1,979,222	1,940,650	38,572
借入資本金	3,120,583	3,429,541	△ 308,958	869,450	1,042,630	△ 173,180
剰余金	△ 2,760,218	△ 3,098,725	338,507	△ 639,989	△ 613,047	△ 26,942
負債・資本合計	6,769,566	6,708,934	60,632	2,231,523	2,398,951	△ 167,428

科 目	統合新病院			病院事業貸借対照表(全体)		
	26年3月末	25年3月末	増 減	26年3月末	25年3月末	増 減
(1) 資 産	1,648,748	1,011,102	637,646	10,649,837	10,085,591	564,246
固定資産	1,496,112	26,375	1,469,737	7,914,900	6,637,684	1,277,216
流動資産	136,086	984,727	△ 848,641	2,663,956	3,372,648	△ 708,692
繰延勘定	16,550	0	16,550	70,981	75,259	△ 4,278
(2) 負 債	169,001	83,166	85,835	543,789	507,367	36,422
固定負債	0	0	-	0	0	-
流動負債	169,001	83,166	85,835	543,789	507,367	36,422
(3) 資 本	1,479,747	929,143	550,604	10,106,048	9,578,224	527,824
自己資本金	432,828	242,500	190,328	8,469,303	8,131,182	338,121
借入資本金	1,044,000	685,500	358,500	5,034,033	5,157,671	△ 123,638
剰余金	2,919	1,143	1,776	△ 3,397,288	△ 3,710,629	313,341
負債・資本合計	1,648,748	1,012,309	636,439	10,649,837	10,085,591	564,246

注)平成24年度の病院毎の貸借対照表は、病院間の資金流用を含めて計上している。従って、流動資産、流動負債の3病院の合計額は、事業貸借対照表の額と一致しない。また、統合新病院の控除対象外消費税は、その償却額を加賀市民病院の繰延勘定償却に含めて計上している。

主に資産を見ると、加賀市民病院では、病院や診療所等の施設間における患者の診療情報の共有化を目的とした、地域医療連携システム等の新設の他、超音波診断装置等の更新や人工呼吸器等の増備等に 80 百万円を新たに投資した。また、山中温泉医療センターでも、地域医療連携システム等の新設ほか、資産購入や器械及び備品の更新（超音波診断装置、セントラルモニタ等）に 33 百万円を投資した。しかし、投資額以上に減価償却や資産の除却等の処分費が前年度比増となったことにより、固定資産総額では両病院共に減少している。

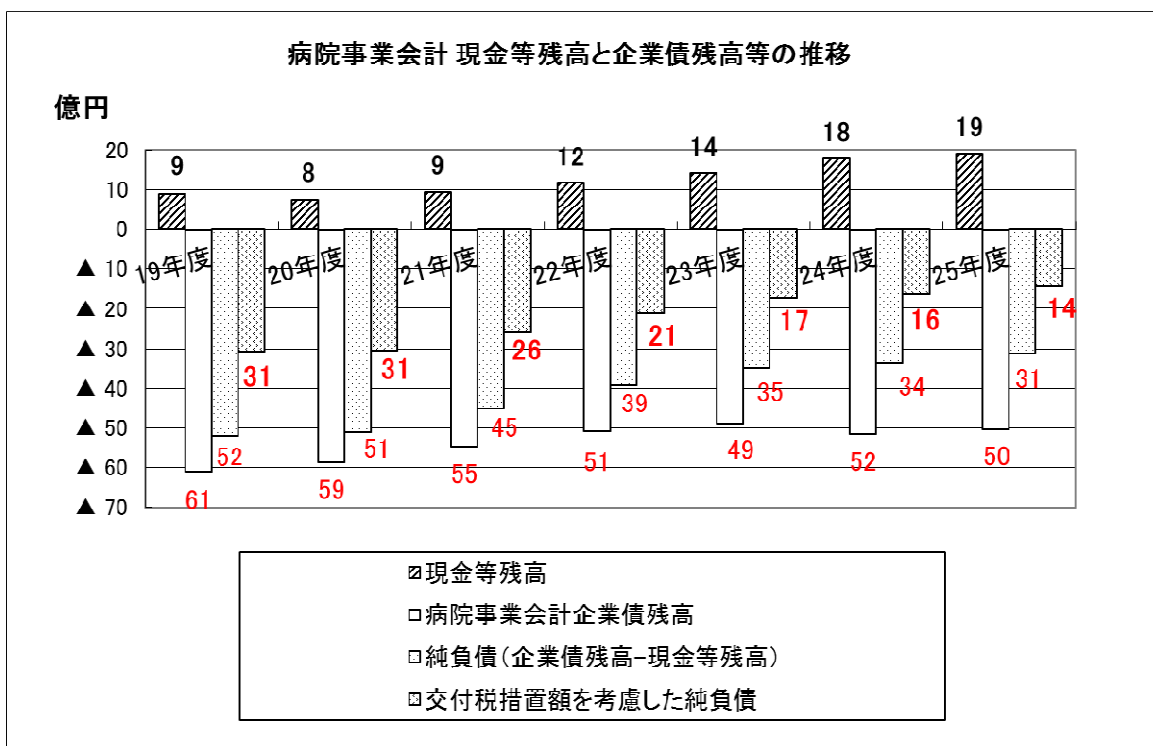
統合新病院では、建設用地が取得され土地が増加し、また、病院建設に向け建設仮勘定が増加したことにより、固定資産が前年度比 14 億 70 百万円の増加となった。

繰延勘定は総額 71 百万円で、前年度比 4 百万円減少した。これは、加賀市民病院での開発費、退職給与金、控除対象外消費税の償却により 21 百万円減少し、統合新病院での控除対象外消費税が 17 百万円増加したことによる。本年度にて、加賀市民病院の繰延勘定の開発費、退職給与金償却はともに償却が終了した。

統合新病院では資本金が増加した。借入額のほか、一般会計及び 2 病院からの出資により、自己資本となる元手が確保されつつあり、開院に向けた準備が進められている。

## 2 審査意見

次に示した「現金等残高と企業債残高の推移」とおり、企業債残高は、昨年度に比べわずかに減少した。現時点では、交付税措置と手持ち資金を考慮した純負債は減少しており、財政状況としては改善傾向にあると言えるが、翌年度以降本格化する統合新病院建設により、今後、大きく企業債残高が増加する見込みであることに留意する必要がある。



加賀市民病院及び山中温泉医療センターにおいては、平成 21 年に策定した「病院事業改革プラン（～27 年度）」に基づき経営改善に向けた様々な取り組みが続けられてきている。これらの取り組みにより病院事業会計全体の損益は、平成 23 年度より黒字決算となり、黒字幅は年々拡大してきている。今年度は前年度に比べ 1 億 7 百万円改善しており、1 億 32 百万円の黒字となった。

ただし、両病院の累積欠損額は、平成 25 年度決算ではなおも総額で 39 億 71 百万円を超えた状態にある。

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は病院の材料費の節減や患者負担の軽減に止まらず、各種医療保険財政の改善にも資するものである。国民健康保険でも医療費通知葉書に、ジェネリック医薬品を使用した場合の医療費の節減効果を通知するなどの取り組みを行っている。これまでも繰り返し求めてきたことであるが、市が設置している公立病院においても、率先してジェネリック医薬品の普及に取り組むことを望みたい。

平成 23 年以降、加賀市民病院と山中医療センターの統合を含めた市の医療体制については、多くの関係者の並々ならぬご努力により、ハード・ソフト両面にわたり、詳細な検討が行われ、平成 24 年 8 月に統合新病院建設基本計画が示された。

そのような中、建設計画の妥当性について客観的な判断を仰ぎたいとして「加賀市統合新病院計画検証委員会」を設置し、再検証した結果、「2 病院を統合し 300 床の病院建設には合理性があると」の答申が示され、統合新病院建設については先の計画通り実施することとなった。ハードとしての病院はほぼ見えてきたと言えるが、一方、病院建設の成否のカギは、今回の検証結果報告書でも再三言及されているが「医師の招へい」にあると言える。計画通り医師を招へい出来なければ十分な医療提供が行えないばかりか、病院事業の継続性そのものにも支障が出る恐れがあり、加賀市財政を破綻させるだけの損失を生む可能性もある。

統合新病院は、市民の健康を守り、誰でも安心して必要な医療を受けられる市民のための病院とならなければならない。そのためには、何より「医師の招へい」が重要であり、加賀市政の喫緊の課題として鋭意取り組むことが必要である。

(注) 文中は原則として百万円単位または億円単位で表示し、単位未満は四捨五入した。

※ 平成25年度決算審査意見書の「原本」は、加賀市監査委員事務局(加賀市役所本館4階)にて、閲覧できます。